

病虫害発生予察 8月月報 (生育概況及び病虫害の調査結果)

令和6年8月の気象表(長野地方気象台発表)

官署等	平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
長野	本年	27.3	27.2	26.5	9.5	7.0	100.0	86.1	69.0	46.2
	平年	26.2	25.6	24.4	27.4	40.1	44.4	73.7	65.1	63.0
松本	本年	27.2	26.8	25.4	56.0	59.5	43.5	93.2	72.1	41.8
	平年	25.8	25.3	24.2	30.0	27.2	44.4	72.6	65.7	64.6
諏訪	本年	26.4	26.0	24.2	113.5	35.0	118.0	94.3	69.4	41.0
	平年	24.8	24.3	23.3	41.1	53.1	46.6	71.8	63.5	64.1
軽井沢	本年	22.9	22.8	21.8	82.0	79.5	111.0	70.4	47.9	28.9
	平年	21.4	21.0	20.1	36.5	47.3	57.8	58.0	51.1	53.6
飯田	本年	28.3	27.6	25.0	5.0	82.5	178.0	87.1	73.8	48.6
	平年	26.0	25.6	24.6	38.2	49.8	61.3	69.5	62.8	62.8

太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気の影響で、曇りや雨または雷雨となった所があった。

平均気温は、月を通して暖かい空気に覆われやすかったため、平年と比べ高く推移した。

1 水稲

(1) 水稲の生育状況

須坂市(農業試験場)の生育状況は、草丈はやや高く、茎数はほぼ平年並、出穂期は平年と比べ2日早かった(第1表)。

原村(農業試験場原村試験地)の生育状況は、草丈、茎数はほぼ平年並、出穂期は平年と比べ4日早かった(第2表)。

第1表 須坂市(農業試験場作物部)の生育状況

品種名	区分	移植後30日			移植後40日			幼穂形成期	出穂期
		主稈葉数	草丈 cm	茎数本/m ²	主稈葉数	草丈 cm	茎数本/m ²		
あきたこまち	平年	8.0	35	427	9.4	47	612	7/7	7/27
	前年	7.5	37	425	9.3	45	640	7/7	7/28
	本年	8.1	37	433	9.3	52	596	7/7	7/25
コシヒカリ	平年	8.2	38	474	9.5	51	644	7/12	8/5
	前年	7.5	38	305	9.5	45	503	7/13	8/6
	本年	8.2	40	475	9.4	54	649	7/11	8/3

移植期:2024年5月20日

平年は2017~2023年までの収量最高年と最低年を除く5か年の平均値

第2表 原村(農業試験場原村試験地)の生育状況

品種名	区分	移植後40日			移植後50日			幼穂形成期	出穂期
		主稈葉数	草丈 cm	茎数本/m ²	主稈葉数	草丈 cm	茎数本/m ²		
ゆめしなの	平年	9.0	53	406	10.2	67	474	7/10	8/4
	前年	9.6	54	576	11.0	73	602	7/8	8/1
	本年	8.8	50	373	10.2	68	462	7/7	7/31

移植期:2024年5月24日

平年は2017~2023年までの収量最高年と最低年を除いた5か年の平均値

(2) 病虫害の発生状況

①いもち病

8月上旬の巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域の発病地点率は平年と比べ高く、南信地域は低かった。

平均発病株率は、東信地域は平年と比べ高く、北信地域は平年並、南信地域、中信地域は平年と比べ低かった。なお、東信地域の一部のほ場では、上位葉(止葉及び次葉)への進展が認められた(第3表)。

第3表 8月上旬の葉いもち発生状況

地域	発病地点率(%)		平均発病株率(%)		平均上位葉発病株率(%)	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年
東信	34.7	80.0	8.6	13.5	0.4	0.3
南信	21.5	16.7	3.7	0.6	0.6	0.0
中信	9.8	15.0	1.9	0.6	0.5	0.0
北信	27.5	88.2	6.4	7.7	1.0	0.0
県全体	22.1	47.1	4.9	5.1	0.6	0.1

(注)発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの、平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの、平均上位葉発病株率は巡回調査地点の上位葉(止葉・次葉)の発病株率を地域ごとに平均したもの、平年は2014~2023年の平均値
なお、調査地点数は第6表と同じ

②紋枯病

8月上旬の巡回調査では、東信地域の発病地点率は平年と比べ高く、南信地域、中信地域、北信地域は平年と比べ低かった。平均発病株率は、東信地域は平年と比べ高く、北信地域は平年並、南信地域、中信地域は低かった。

8月下旬の巡回調査では、東信地域、北信地域の発病地点率は平年と比べやや高い~高かったが、南信地域、中信地域は低かった。平均発病株率は、全般に平年と比べ低かった(第4表)。

第4表 紋枯病の平均発病株率(%)

地域	発病地点率(%)				平均発病株率(%)			
	8月上旬		8月下旬		8月上旬		8月下旬	
	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
東信	34.9	46.7	61.2	86.7	4.4	4.7	20.3	14.8
南信	20.8	16.7	50.7	11.1	2.4	0.4	13.4	0.6
中信	36.8	5.0	62.0	40.0	3.5	1.0	17.9	1.6
北信	21.0	11.8	44.3	47.1	1.2	1.2	10.6	3.1
県全体	30.9	18.6	54.4	44.3	2.9	1.7	15.4	4.5

(注)発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの、平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの、平年は2014~2023年の平均値
なお、調査地点数は第6表と同じ

③白葉枯病

8月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④縞葉枯病

8月下旬の巡回調査では、東信地域、北信地域の発病地点率及び平均発病株率は平年と比べ高かったが、南信地域、中信地域は発生がみられなかった。

東信地域、北信地域では、令和元年から発生面積が増加傾向である。発病地点率は、本年と令和元年からの5か年平均との比較した場合、東信地域はほぼ同等であったが、北信地域は大幅に増加し、また平均発病株率も高かった(第5表)。

第5表 8月下旬の縞葉枯病の発生状況

地域	発病地点率(%)			平均発病株率(%)		
	平年	令和元年~5年(5か年平均)	本年	平年	令和元年~5年(5か年平均)	本年
東信	12.7	25.3	26.7	4.2	8.3	5.1
南信	0	0	0	0	0	0
中信	0.5	1.0	0	0	0.1	0
北信	5.3	10.6	41.2	0.5	1.0	3.5
県全体	4.1	10.6	15.7	1.0	2.0	1.9

(注)発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの、平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの、平年は2014~2023年の平均値
なお、調査地点数は第6表と同じ

⑤ヒメトビウンカ

8月上旬のすくい取り調査(本田ネット20回振)では、東信地域、北信地域の平均捕獲頭数は平年並、南信地域、中信地域は平年と比べ少なかった(第6表)。

8月下旬のすくい取り調査では、東信地域の平均捕獲頭数は平年並、南信地域、中信地域、北信地域は平年と比べ少なかった(第6表)。

第6表 ヒメトビウンカ成虫(短翅も含む)の平均捕獲頭数(頭)

地域	調査地点数	8月上旬		8月下旬	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	11.7	11.9	44.9	44.5
南信	18	5.2	1.8	8.1	4.7
中信	20	10.6	2.5	20.6	12.8
北信	17	15.4	15.6	48.8	37.7
県全体	70	10.3	7.5	31.0	23.6

(注)平均捕獲数は巡回調査地点の捕獲数を地域ごとに平均したもの、平年は2014~2023年の平均値

⑥ツマグロヨコバイ

8月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）では、東信地域の平均捕獲頭数（成虫＋幼虫）は平年並、南信地域、中信地域、北信地域は平年と比べ少なかった。

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）では、東信地域の平均捕獲頭数（成虫＋幼虫）はほぼ平年並、南信地域、中信地域、北信地域は平年と比べ少なかった。

⑦セジロウンカ

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）では、南信地域、中信地域の成虫平均捕獲頭数は平年と比べやや多い～多かったが、東信地域、北信地域は少なかった。幼虫平均捕獲頭数は、南信地域、中信地域は平年と比べ多かった（第7表）。

第7表 8月下旬のセジロウンカの平均捕獲頭数（頭）

地域	調査地点数	成虫（短翅含む）		幼虫	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	5.3	3.2	2.3	0.4
南信	18	6.1	7.1	4.9	11.6
中信	20	6.5	9.4	3.8	14.3
北信	17	9.9	3.6	3.2	0.8
県全体	70	7.0	6.1	3.8	7.3

(注) 平均捕獲数は巡回調査地点の捕獲数を地域ごとに平均したもの、平年は2014～2023年の平均値

⑧トビイロウンカ

上田市と須坂市に設置した予察灯では、誘殺されなかった（8月31日現在）。

8月上旬と下旬の巡回調査ほのすくい取り調査（本田ネット20回振）では、捕獲されなかった。

⑨イナゴ

8月下旬の巡回調査ほのすくい取り調査（本田ネット20回振）では、東信地域の平均捕獲頭数は平年と比べ多かったが、南信地域、中信地域、北信地域は平年と比べやや少ない～少なかった。

⑩斑点米カメムシ類

8月上旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）では、南信地域、中信地域の捕獲頭数は平年と比べ多く、東信地域、北信地域は平年並であった。

8月下旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）では、中信地域の捕獲頭数は平年と比べ多く、東信地域、北信地域は平年並であった（第8表）。

第8表 斑点米カメムシ類平均捕獲数（頭）

地域	8月上旬		8月下旬	
	平年	本年	平年	本年
東信	0.4	0.4	0.5	0.6
南信	1.0	3.0	8.9	3.7
中信	2.5	3.2	1.8	2.6
北信	0.3	0.3	0.8	0.9
県全体	1.1	1.8	3.2	2.0

(注) 発生種（トゲシラホシカメムシ類、ホソハリカメムシ、アカヒメヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、アサジカスミカメ）の平均捕獲数は巡回調査地点の地域ごとに平均したもの、平年は2014～2023年の平均値

⑪フタオビコヤガ（イネアオムシ）

8月上旬及び下旬の25株払落し調査では、全般的に捕獲頭数は平年並～やや少なかった。

2 りんご

(1) 生育概況

9月15日までの須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、ふじは平年並である（第1表）。

第1表 りんごの果実肥大状況 須坂市（果樹試験場）

調査日	つがる								ふじ							
	横径(mm,%)				縦径(mm,%)				横径(mm,%)				縦径(mm,%)			
	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比
8/1	80.1	81.0	75.3	94	69.0	73.5	69.5	101	71.4	70.1	71.3	100	60.0	63.2	60.0	100
8/15	85.4	84.4	80.8	95	73.6	76.4	73.3	100	76.9	74.8	76.8	100	64.5	67.3	66.1	103
9/1	92.0	-	89.2	97	79.0	-	80.9	102	82.0	80.2	82.1	100	69.1	72.4	71.1	103
9/15	-	-	-	-	-	-	-	-	85.3	82.5	84.9	100	72.2	74.1	74.2	103

平年は2009年～2023年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①褐斑病

巡回調査では、南信地域、中信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②輪紋病

巡回調査では、南信地域、北信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

③炭疽病

巡回調査では、南信地域の一部の発生がみられ、発生量は平年並であった。

④キンモンホソガ

巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域の一部のほ場で葉への寄生がみられた。北信地域の一部のほ場で被害葉率はやや高かったが、発生量は平年並であった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少なかった（第2表）。

第2表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	241.3	379.0	568.1	589.2	440.3	462.9
前年	75	22	58	147	304	667
本年	104	221	209	165	125	68

平年は2014年から2023年までの平均値

⑤シンクイムシ類

巡回調査では、果実被害はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並～やや少なかった（第3表）。

須坂市（果樹試験場）のスモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった（第4表）。

第3表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	11.2	16.0	12.9	6.3	6.9	5.0
前年	17	14	10	1	9	3
本年	9	4	0	0	2	3

平年は2014年から2023年までの平均値

第4表 スモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	7.6	5.2	5.6	5.9	8.5	11.1
前年	23	13	21	47	57	78
本年	32	13	0	17	27	55

平年は2014年から2023年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、全域でリンゴハダニ、ナミハダニの寄生がみられ、一部のほ場では多発傾向であった。発生量は平年並～やや多かった。

⑦リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺はなかった（第5表）。

第5表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	0	0	0	0.1	0	0.1
前年	0	0	0	0	0	1
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

3 なし

(1) 生育概況

9月1日までの高森町(南信農業試験場)の果実肥大は、二十世紀は平年並、豊水はやや小さかった(第1表)。

第1表 なしの果実肥大状況 (mm、%) 高森町(南信農業試験場)

品 種	区分	8月1日		8月15日		9月1日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	平年	63.9	56.5	75.8	66.5	87.6	76.8
	前年	71.8	64.7	80.7	74.7	94.1	83.0
	本年 (平年比)	67.5 (106)	59.1 (105)	77.8 (103)	67.1 (101)	88.3 (101)	75.4 (98)
幸 水	平年	72.7	58.9	87.0	70.2	98.2	79.1
	前年	76.6	63.2	87.8	72.8	—	—
	本年 (平年比)	73.2 (101)	58.7 (100)	86.8 (100)	68.9 (98)	—	—
豊 水	平年	69.4	60.7	83.2	72.3	96.3	82.6
	前年	76.6	68.5	89.1	79.4	—	—
	本年 (平年比)	65.0 (94)	60.2 (99)	80.5 (97)	70.1 (97)	90.4 (94)	78.3 (95)

平年は2001年から2020年までの平均値(幸水は長果枝と短果枝の平均)

(2) 病虫害の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、南信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病率は平年並であった(第2表)。

第2表 果実の発病 (%) 高森町(南信農業試験場)

区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	40.3	49.4	52.7	67.7	75.1	74.8	87.9
前年	59.8	65.4	78.2	88.0	96.6	—	—
本年	1.2	1.2	21.7	22.1	59.7	81.3	93.0

平年は2014年から2023年までの平均値 「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

③黒斑病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)の調査では、アルタナリア属菌の孢子捕捉数は、平年並であった(第3表)。

高森町(南信農業試験場)の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病は6月下旬からみられ、7月中旬以降の発病率は平年と比べやや多かった。また、新梢葉の発病は平年並であった(第4、5表)。

第3表 アルタナリア属菌の捕捉孢子数(個) 高森町(南信農業試験場)

区分	8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平年	29.6	18.8	12.4	8.5	6.5	3.7
前年	26	72	20	12	18	10
本年	22	28	46	9	—	—

平年は2014年から2023年までの平均値、2023年から旬毎の調査に変更
表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数(個)

第4表 果実の発病(「二十世紀」殺菌剤無散布樹)(%)

区分	7月			8月			9月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	37.3	68.6	79.5	81.5	83.4	97.3	—
前年	91.4	99.9	—	—	—	—	—
本年	65.4	95.8	96.3	—	—	—	—

平年は2014年から2023年までの平均値
黒斑病による落果が増加したため7月25日で調査終了した

第5表 新梢葉の発病(「二十世紀」殺菌剤無散布樹)(%)

高森町(南信農業試験場)

区分	7月			8月			9月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	29.6	40.8	51.7	55.8	57.0	66.0	67.2
前年	42.8	54.4	74.3	74.5	76.6	88.3	91.8
本年	21.1	22.8	35.3	47.3	53.5	68.4	72.0

平年は2014年から2023年の平均値

④輪紋病

巡回調査では、果実被害はみられなかった。

⑤枝幹性病害(胴枯病・枝枯病)

巡回調査では、発病はみられなかった。

⑥カメムシ類

巡回調査では発生はみられなかったが、周辺の山際にあるほ場では発生がみられた。

高森町(南信農業試験場)のフェロモントラップでは、クサギカメムシの誘殺頭数は平年並であった。チャバネアオカメムシの誘殺頭数は、平年と比べ多かった(第6表)。

第6表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

高森町(南信農業試験場)

区分	月	8月					
	半旬	1	2	3	4	5	6
クサギカメムシ	平年	0.3	0	0.5	0.1	0.2	1
	前年	0	0	0	0	0	0
	本年	0	0	1	1	0	0
チャバネアオカメムシ	平年	16.2	6.3	7.7	5	3.6	4.1
	前年	0	0	0	0	0	1
	本年	59	57	55	137	39	54

平年は2014年から2023年までの平均値

⑦ナシヒメシクイ

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや多かった(第7表)。

第7表 ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

高森町(南信農業試験場)

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
平年	4.7	4.4	4.5	6.8	8.9	14.8
前年	12.5	7	13.5	34	33.5	69.5
本年	1	4.5	6	17	34	38

平年は2014年から2023年までの平均値

⑧モモシクイガ

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった(第8表)。

第8表 モモシクイガのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

高森町(南信農業試験場)

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
平年	0.2	0.5	0.6	0.4	0.3	0.6
前年	0.5	1	2.5	1	1.5	3
本年	2	1	0	0	0	5.5

平年は2014年から2023年までの平均値

⑨ハダニ類

巡回調査では、南信地域でナミハダニの発生がみられ、発生量は平年と比べやや多かった。

⑩リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)のフェロモントラップ調査では誘殺されなかった(第9表)。

第9表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.5
前年	0	0	0	0	0	1
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

4 もも

(1) 生育概況

8月10日までの須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、「川中島白桃」は大きい傾向であった（第1表）。

第1表 ももの果実肥大状況 須坂市（果樹試験場）

品種名	月日	横径(mm)			縦径(mm)			側径(mm)			平年比		
		平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	横径	縦径	側径
川中島白桃	7/27	63.5	74.5	76.9	61.4	69.7	75.0	63.1	77.2	79.9	121	122	127
	8/ 3	69.3	80.2	82.7	66.1	74.9	79.1	70.2	83.8	87.1	119	120	124
	8/10	74.7	84.4	88.5	70.6	77.9	84.4	76.6	88.9	94.2	118	120	123

平年は2004年から2023年までの平均値

川中島白桃は8月10日に収穫開始のため、8月10日で調査を終了した

(2) 病害虫の発生状況

①黒星病

巡回調査では、発病はみられなかった。

②せん孔細菌病

巡回調査では、中信地域の一部のほ場で果実に発病がみられたが、発生量は平年並であった。

③灰星病

巡回調査では、東信地域、北信地域の一部のほ場で発病がみられたが、発生量は平年並であった。

④シンクイムシ類

巡回調査では、被害果実はみられなかった。

須坂市（病害虫防除所）のモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺はなかった（第2表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（病害虫防除所）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	—	—	—	—	—	—
前年	—	—	—	—	—	—
本年	0	0	0	0	0	0

調査ほ場を2024年に変更したため、平年値及び前年値はない

⑤モモハモグリガ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第3表）。

第3表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	235.8	98.4	63.4	49.0	137.8	94.3
前年	331	40	13	12	7	60
本年	7	3	35	32	29	8

平年は2014年から2023年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、葉への寄生はみられなかった。

⑦カイガラムシ類

巡回調査では、寄生はみられなかった。

5 ぶどう

(1) 生育概況

9月9日までの須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、巨峰は平年並、ナガノパープルは平年と比べやや小さい、シャインマスカットは平年と比べやや大きい傾向であった（第1表）。

第1表 ぶどうの果実肥大状況 須坂市（果樹試験場）

品種名	調査日	横径(mm、%)				縦径(mm、%)			
		平年 (平均値)	前年	本年	平年比 (平均比)	平年 (平均値)	前年	本年	平年比 (平均比)
巨峰	8/ 5	25.6	24.7	26.0	102	27.2	27.6	27.7	102
	8/12	26.3	25.3	26.4	101	28.1	28.5	28.5	101
	8/19	26.7	25.6	26.8	100	28.8	28.9	29.1	101
	8/26	26.8	25.7	26.9	101	29.1	29.2	29.4	101
	9/ 2	26.9	25.8	27.1	101	29.3	29.3	29.7	101
	9/ 9	26.9	25.8	27.1	101	29.4	29.4	29.8	101
ナガノパープル	8/ 5	(29.1)	30.6	29.3	(101)	(33.0)	35.4	32.5	(99)
	8/12	(29.6)	31.1	29.4	(99)	(33.9)	36.0	32.9	(97)
	8/19	(30.0)	31.3	29.5	(98)	(34.5)	36.3	33.1	(96)
	8/26	(30.2)	31.4	29.7	(98)	(34.8)	36.5	33.5	(96)
	9/ 2	(30.4)	31.5	29.8	(98)	(35.1)	36.7	33.6	(96)
	9/ 9	(30.4)	31.6	29.8	(98)	(35.2)	36.8	33.7	(96)
シャインマスカット	8/ 5	(23.4)	25.0	24.7	(105)	(28.8)	31.3	31.1	(108)
	8/12	(24.5)	26.1	25.4	(103)	(30.1)	32.5	31.9	(106)
	8/19	(25.1)	26.5	26.0	(103)	(31.0)	33.3	32.7	(106)
	8/26	(25.7)	27.0	26.3	(102)	(31.6)	34.0	33.3	(105)
	9/ 2	(26.0)	27.2	26.7	(102)	(32.1)	34.3	33.8	(105)
	9/ 9	(26.2)	27.3	26.8	(102)	(32.4)	34.5	34.2	(106)

平年は、巨峰は2006年から2023年までの平均値

ナガノパープル及びシャインマスカットは2016年から2023年までの平均値

9月9日で調査終了した

(2) 病害虫の発生状況

①さび病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②べと病

巡回調査では、中信地域、北信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

③黒とう病

巡回調査では、北信地域の一部のほ場で茎葉に発生がみられ、発生量は平年並であった。

④クビアカスカシバ

小布施町（病害虫防除所）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第2表）。

第2表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

小布施町（病害虫防除所）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	1.7	1.4	0.5	0.2	0.2	0.3
前年	2	2	1	0	0	0
本年	0	1	2	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

⑤チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

6 かき

(1) 生育概況

9月1日までの高森町（南信農業試験場）の果実肥大は、平年並であった（第1表）。

第1表 かきの果実肥大状況 高森町（南信農業試験場）

品種名	区分	8月1日(mm、%)		8月15日(mm、%)		9月1日(mm、%)	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
市田柿	平年	38.9	35.8	45.4	42.5	50.5	47.7
	前年	41.3	40.3	47.5	46.6	52.0	51.7
	本年	39.9	39.3	45.9	44.8	50.5	49.4
	(平年比)	(103)	(110)	(101)	(105)	(100)	(103)

平年は2001年から2020年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①炭疽病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②円星落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③カキクダアザミウマ

巡回調査では、発生はみられなかった。

④カキノヘタムシガ

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、8月第4半旬以降は平年と比べやや多かった（第2表）。

第2表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	8月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平年	25.8	12.3	11.2	10.8	13.6	24.2
前年	27	3	4	5	8	10
本年	57	5	4	17	52	67

平年は2014年から2023年までの平均値

⑦ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

7 **野菜・花き**

(1) 病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

巡回調査では、東信地域の露地栽培で輪紋病、南信地域の露地栽培（ジュース用）で灰色かび病、中信地域の露地栽培（ジュース用）で灰色かび病、輪紋病、北信地域の施設栽培で葉かび病、輪紋病の発生がみられた。

虫害においては、東信地域の露地栽培でアザミウマ類の寄生及び果実の白ぶくれ被害、オオタバコガによる果実被害、南信地域の露地栽培（ジュース用）でアブラムシ類の寄生、オオタバコガによる果実被害、施設栽培でオンシツコナジラミの寄生、中信地域の露地栽培（ジュース用）でアザミウマ類による果実の白ぶくれ被害、オンシツコナジラミの寄生、オオタバコガによる果実被害、北信地域の施設栽培でアザミウマ類、オンシツコナジラミの寄生がみられた。

②きゅうりの病害虫

巡回調査では、北信地域の施設栽培でうどんこ病、露地栽培では褐斑病、炭疽病、べと病の発生がみられた。

虫害においては、南信地域及び中信地域の施設栽培でワタヘリクロノメイガ（ウリノメイガ）の寄生がみられた。また、北信地域の施設栽培でハダニ類、露地栽培でハモグリバエ類の寄生がみられた。

③キャベツの病害虫

巡回調査では、東信地域の多くのほ場で株腐病、一部のほ場で黒腐病、北信地域で株腐病、黒腐病の発生がみられた。

虫害においては、ほぼ全域の多くのほ場で、コナガ、ウワバ類などチョウ目害虫の被害がみられた。また、中信地域の一部のほ場ではアザミウマ類の寄生がみられた。

④ブロッコリーの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

虫害においては、東信地域の一部のほ場及び南信地域でコナガ、ウワバ類などチョウ目害虫の被害がみられた。

⑤はくさいの病害虫

巡回調査では、東信地域の一部のほ場でピシウム腐敗病、中信地域で軟腐病の発生がみられた。

虫害においては、東信地域でコナガ、ウワバ類などチョウ目害虫の被害がみられた。

⑥レタスの病害虫

巡回調査では、全域で斑点細菌病の発生がみられた。また、東信地域、北信地域ですそ枯病の発生がみられた。

虫害の発生はみられなかった。

⑦セルリーの病害虫

巡回調査では、南信地域の露地栽培で、ハモグリバエ類の寄生がみられた。

⑧アスパラガスの病害虫

巡回調査では、東信地域（露地栽培）南信地域（雨よけ栽培）中信地域（露地栽培）で茎枯病、北信地域（露地栽培）で茎枯病、斑点病の発生がみられた。

虫害においては、全域でアザミウマ類の寄生がみられた。また、東信地域でジュウシホシクビナガハムシ、オオタバコガ、南信地域の一部のほ場でハダニ類の寄生がみられた。

⑨コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第3半旬は平年と比べ多かったが、その他の期間はやや少なかった。小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、全般的に平年と比べ少なかった。上田市菅平（地区予察ほ）では、全般的に平年と比べ多かった。原村（防除決定ほ）では、第3半旬まで平年と比べ多かったが、第4半旬以降、平年と比べ少なかった。朝日村（地区予察ほ）では、第3半旬までは平年と比べやや少なかったが、第4半旬以降は平年と比べやや多かった。長野市上ヶ屋（地区予察ほ）では、第3半旬まで平年と比べ少なかったが、その後急増し、第5、第6半旬は平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	8月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	24.4	17.8	16.9	18.1	22.6	13.1
		本年	7	11	24	12	16	8
小諸市山浦 （同 佐久支場）	レタス	平年	14.5	15.4	13.4	10.3	11.3	12.9
		本年	6	0	5	7	0	4
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	6.9	4.4	5.5	4.8	6.1	4.6
		本年	12	8	8	17	10	4
原村 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	36.5	31.7	36.7	42.4	29.5	38.4
		本年	111	177	175	27	8	11
朝日村 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	12.7	33.5	28.0	19.8	22.0	33.8
		本年	10	19	19	31	32	42
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	17.9	25.6	22.2	25.3	28.9	39.8
		本年	15	5	4	25	38	59

平年は2014年から2023年までの平均値、朝日村は2019年から2023年までの平均値

⑩オオタバコガ

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第1、第2半旬は平年並であったが、第3半旬以降、平年と比べ多かった。小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、全般的に平年と比べ多かった。平年値の2.6～4.2倍とかなり多かった。須坂市小河原（農業試験場）では、第3半旬まで平年と比べ少なかったが、その後急増し、第3～第6半旬は平年と比べ多かった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	8月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	36.4	43.1	45.2	51.5	48.6	43.6
		本年	31	42	71	86	91	53
小諸市山浦 （同 佐久支場）	レタス	平年	16.5	30.2	36.4	34.5	42.0	48.3
		本年	62	69	59	68	47	71
須坂市小河原 （農業試験場）	サツマイモ ・だいず	平年	10.4	19.3	25.2	32.4	28.7	20.7
		本年	0	0	0	69	60	36

平年は2014年から2023年までの平均値

⑪ヨトウガ類

ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第3～第5半旬は平年と比べ多かったが、その他の期間は平年並であった。須坂市小河原（農業試験場）では、平年と比べ少なかった（第3表）。

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、全般的に平年と比べ多かった。特に第6半旬は、平年の2倍であった。須坂市小河原（農業試験場）では、第3半旬から急増し、平年の数十倍となり、第5、第6半旬は1,000頭を超える誘殺頭数であった。上田市菅平（地区予察ほ）では、全般的に平年と比べ少なかった（第4表）。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第2半旬以降、多くなり、平年の2～4倍と、かなり多かった。長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）では、全般に平年と比べ多かった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	25.9	16.0	13.5	16.9	14.3	19.0
		本年	22	14	20	23	36	23
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	0.2	0.7	1.2	1.8	2.8	4.6
		本年	0	1	0	0	0	0

平年は2014年から2023年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	34.4	35.0	42.8	49.6	52.5	50.4
		本年	70	42	49	68	75	109
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	18.9	35.3	39.6	43.0	36.2	68.0
		本年	53	48	121	847	1392	1030
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	6.1	6.7	7.0	6.7	7.7	9.1
		本年	1	2	3	5	2	5

平年は2014年から2023年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	11.2	11.6	13.7	11.5	10.4	19.7
		本年	7	19	22	70	42	78
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	0.5	0.8	1.7	2.2	2.0	0.7
		本年	5	4	1	7	6	4

平年は2014年から2023年までの平均値

⑫ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、東信地域のきく（露地栽培）、南信地域のセルリー（露地栽培）、ねぎ、中信地域のねぎ、北信地域のきゅうり（露地栽培）で寄生がみられた。

⑬アザミウマ類（ネギアザミウマ、ヒラズナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市菅平（地区予察ほ）では、第2、第3半旬は平年並であったが、その他の期間は平年と比べ多かった。富士見町（防除適期決定ほ）では、全般的に平年と比べ多かった。塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）では、第3半旬まで、平年と比べ多かったが、以降は平年並の誘殺頭数であった。長野市上ヶ屋（地区予察ほ）では、全般的に平年と比べ多かった（第6表）。

第6表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
			半旬	1	2	3	4	5
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	8.8	7.5	11.7	9.7	14.8	22.0
		本年	17	9	11	16	39	55
富士見町 (防除適期決定ほ)	きく	平年	56.0	61.3	41.0	63.8	73.3	100.0
		本年	102	121	103	100		
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	42.9	11.7	9.8	31.7	27.7	25.5
		本年	220	137	125	41	23	
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	33.8	49.7	80.5	38.7	65.3	79.2
		本年	69	44	121	148	88	77

平年は、富士見町、塩尻市は2017年から2023年までの平均値
上田市・長野市は2018年から2023年までの平均値

⑭アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜野菜花き試験場）では、第2半旬まで平年と比べ少なかったが、第3半旬以降は平年並であった。小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、第3、第4半旬は平年と比べ多かったが、その他の期間は平年と比べ少なかった。上田市菅平（地区予察ほ）では、平年と同様に誘殺頭数が少なかった。富士見町（防除適期決定ほ）では、全般的に平年と比べ多かった。塩尻市洗馬（地区予察ほ）では、第3半旬は平年並の誘殺頭数であったが、その他の期間は平年と比べ少なかった。長野市上ヶ屋（地区予察ほ）では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった（第7表）。

第7表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	8月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	6.9	7.3	6.3	10.3	17.7	19.6
		本年	0	1	7	11	17	
小諸市山浦 (同 佐久支場)	レタス	平年	9.3	8.6	6.1	13.0	15.4	35.6
		本年	3	1	21	18	12	4
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	1.4	2.1	2.6	2.0	1.3	1.9
		本年	0	0	2	1	3	3
富士見町富士見 (地区発生予察ほ)	きく	平年	46.0	44.4	36.0	42.6	72.0	87.5
		本年	60	62	95	99		
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	15.0	10.4	15.3	30.0	33.7	64.6
		本年	7	5	14	2	6	
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	5.1	3.0	3.0	2.1	3.3	5.3
		本年	7	0	4	6	1	0

平年は塩尻市・小諸市・富士見町では2017年から2023年までの平均値

上田市・長野市では2018年から2023年までの平均値

⑮ハダニ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地域のアスパラガス（雨よけ栽培）の一部ほ場、北信地域のきゅうり（施設栽培）でハダニ類の寄生がみられた。